● 主屋 ●

式台付き玄関（左下の写真）や書院造りの奥座敷を持ち、江戸時代の旧名主宅の格式を持った建物で、木造平屋建て、屋根は寄棟造、桟瓦葺です。大黒柱は１尺１寸６分（約 35 ㎝）のケヤキの一木です。込栓や継手などの工法を用いて造られ、釘は使っていません。

● 長屋門 ●

寄棟造、桟瓦葺で正面は 17．71m、側面は 4.54m です。中央の大扉はケヤキの一枚板で、その脇に潜り戸が入口として設けられ、門番が居た板敷の間から屋敷への出入りが確認できる構造になっています。外壁は、鼠漆喰（ねずみしっくい）と呼ばれる灰色の漆喰です。これは松を焼いてできる煤からつくられる松煙墨（しょうえんぼく）を加えて灰色に仕上げています。長屋門は江戸時代の武士や村役人の屋敷にみられ、越谷市内の旧名主宅でもかつて多く見ることができました。

● 石蔵 ●

「東の蔵」と呼ばれ、米蔵として利用されていた。材料の石は、千葉県鋸山周辺で採取される房州石です。内部の壁面に取り付けられている木製の角材は米俵が壁面に接しないようするもので、秋には屋根まで届くほどの米俵が積み上げられていました。